

## 事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

## 【事務事業の基本的事項】

事務事業名	外国青年招致事業費			
担当課係名	教育指導課	教育指導係	作成者	佐藤博範
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ 94
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備		
	主要施策	基礎学力向上と心の教育の充実		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	3 項 中学校費	2 目 教育振興費
事業期間	平成 - 年度 ~ 平成 - 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	仙北市招致外国青年任用規則			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

## 【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内の小中学校の児童生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	A L T (外国語指導助手) の派遣などを通じ、英語教育におけるコミュニケーション能力を高め、外国人とのふれあい体験の機会を充実する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	市内の小中学校に A L T を派遣し授業を行う。

## 【事務事業の推移】

		項 目	単位	23年度実績			
効果	活動指標	英語の授業回数 (回)	目標	回	1,837		
			実績	回	1,837		
			達成度	%	100.0%		
	成果指標	英語の授業回数 (回)	目標	回	1,837		
			実績	回	1,837		
			達成度	%	100.0%		
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)			
	事業費(人件費を除く)(A)			14,429			
	人 件 費 (B)		—	1,696			
	職 員 数		—	0.20			
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479			
	(A) + (B) 投下コスト		—	16,125			
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0		
		県 支 出 金			0		
		地 方 債			0		
		そ の 他			0		
		一 般 財 源			16,125		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	8,778			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	542			

【事務事業の今までの成果】

国際社会に対応できる子どもの育成をめざし、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高める他、外国人とのふれあいの体験の機会を充実させるために、平成23年度8月からその活用に自由度があるJETプログラムの外国青年派遣事業によるALTに切り替えをした。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深めることが重要視されている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	ALTの派遣を通じ、英語教育におけるコミュニケーション能力を高め、外国人とのふれあいにより言語や文化に関心が深まることを期待されている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
<b>A</b>	A 現状のまま継続（実施）	平成23年8月からJETプログラムによる派遣事業に切り替え、市内の全小中学校でALTによる外国語授業を行っている。外国人とのふれあい体験の機会は重要であることから今後も継続し実施していく必要性があると思われる。
	B1 見直しの上で継続（拡大）	
	B2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B3 見直しの上で継続（縮小）	
	C1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
<b>A</b>	外国語指導助手との交流により、子供たちの言語や文化に対する関心を深め、国際社会に対応できる子供たちを育成することから、継続して実施する事業と考えます。

